照葉樹林だより

ISSN 1880-8794

てるはの森の会　会報第 16 号
2009 年 10 月 10 日

大森岳の眺望　秋の日の曇天、大森岳８合目付近から西方を望む。多古羅の渓谷から雲が湧き、遠方には霧島連山が見える。　**撮影　坂元守雄**

≪ 目　　次 ≫

☆　北郷町森林セラピーガイド養成講座
☆　みんなで美しい里山、「げんだぼの森」をつくろう！
☆　樹木の生き残るための様々な戦略
☆　調査研究ワーキンググループとは？
☆　「綾の森を世界遺産にする会」発足の思い出
☆　おしらせ「森林再生シンポジウム＆フォーラム」
☆　事務局だより

発行：てるはの森の会
〒880-0014 宮崎県宮崎市鶴島 2 丁目 9-6
みやざき NPO ハウス 403 号
TEL 0985-35-7288 / FAX0985-35-7289
E-mail: teruha@miyazaki-catv.ne.jp
URL: http://www.teruhanomori.com

北郷町森林セラピーガイド養成講座

てるはの森の会　事務局　相馬美佐子

綾の照葉樹林ガイドボランティアは、「特定非営利活動法人 宮崎文化本舗」が2004年と2005年に養成講座を行い、2006年3月にデビューしました。その後、「てるはの森の会」が運営を引き継ぎ今年で4年目を迎えました。現在年間約500人を案内し、照葉樹林の魅力をお伝えしています。

その実績をかわれ、昨年より「てるはの森の会」と「特定非営利活動法人 宮崎文化本舗」が協同で日南市北郷町森林セラピーガイド養成講座を開催しています。今回は受講生 21 名の皆さんと先進地視察として、日之影町森林セラピーガイド、綾照葉樹林ガイド体験を行いました。

このガイド養成講座には、綾のボランティアガイド数名が参加して、いろいろ助けて頂いています。

◆日之影町森林セラピーガイドを体験して◆

講座受講生　　杉浦典子

8月29日(土)に日之影町森林セラピー基地「矢筈岳トロッコ道」のウォーキングに参加しました。

完歩できるか不安な気持ちで、最初のストレスチェック（唾液のアミラーゼを計る）を受けて出発。歩き始めれば目の前に迫る高い山と、その間を縫うように続くトロッコ道の跡を歩き、手彫りのトンネルの岩肌に残るノミに昔の人達の労働力に驚かされました。途中、展望所で頂いた「ゆずジュース」のおいしかったこと。ガイドの人が重い水筒を背負って来られたのだと思うと、そのジュースの冷たさと反比例する「おもてなしの心」の温かさに、眺める絶景と同じ感動を受けました。アップダウンもなく、歩きやすく楽しんで歩け、最後に再びストレスチェックを受けたところ、ストレスも半分に下がっていました。

翌日は綾の照葉大吊り橋遊歩道をガイドさんの案内で歩きました。

二つのガイドを体験して、森の中には人間の奥底にある部分と共通するものがあって、それが共鳴し合って癒しの効果が表われてくるのではないかと思いました。綾の原生林を見て、自然を守ることの難しさを考えさせられました。「人が関わらないという植物愛」というガイドさんの言葉が心に残りました。

◎　綾の照葉樹林ガイド受講感想記　◎

講座受講生　戸高裕子

8月30日(日)、日之影町での研修の疲れを少し引きずっての綾研修でした。現地到着直前に雨。これで今日は中止かな？と思う私の心の中を見透かすかのように、綾の森は霧を見る間に上昇させ、私たちをやさしく誘ってくれました。

はじめに、当日ガイドをしていただく 4 名の方が自己紹介をされましたが、皆さんそれぞれが自信にあふれていました。私たちは第1班で、駒田さんにガイドをしていただきました。

駒田さんは猪八重のガイド養成講座で何度かお会いしていますが、この日は木や植物や山の事をとても専門的に説明していただき、全く別人かと思うくらいでした。

その説明の中でも「イヌマキ」、「イヌビワ」などの「イヌ」という言葉は、「偽物。本物ではない」ことを意味する事が印象に残り、これから少しずつでも木や植物の名前や特性を覚えようと思っている私には、とても参考になりました。

私たち北郷町のガイドは、まだスタートしたばかりですが、あと２～３年後には綾のガイドの方々のレベルに追いつけるよう努力する事を心に誓った研修でした。

綾町　森林づくり活動支援事業

みんなで美しい里山、「げんだぼの森」をつくろう！！

てるはの森の会　会員　大津留　司

2009 年 2 月 7 日に、綾町民 90 名を含む 150 名が参加して、綾町三本松原の東部町有地に植樹が行なわれました。昆虫が来て子供たちが遊べる、そして収穫ができる里山「げんだぼの森」をつくるためです。クヌギ、コナラ、クリなど 20 種類以上の木が 2300 本植えられました。森をつくると言っても、植樹して放っておけば森になるわけではありません。その後、7 月 5 日と 7 月 10 日に、ボランティア計 16 名により、草刈機 6 台を使って下草刈りが行なわれました。植樹と下草刈りに参加して、考えたことをいくつか記します。

植樹をした土地は、もともと田んぼでした。それがミカン園に変わってから放置されていたので、カズラやイバラや雑草が生い茂っていました。そこをシルバー人材センターの人たちが草刈をして植樹しました。土地はよく肥えていて、植樹のあとも雑草の成長が早いところでした。植樹した時に、直径 2 センチ長さ 1 メートルの角材を支柱として立てましたが、カズラなどが巻きついて、下草刈りをするときには倒れていました。もっと太い 1.5 メートルくらいの支柱を立てる必要があると思いました。

7 月に行ったときには、植樹した木の上に雑草やかずらが覆いかぶさり、どこに植えたのかわかりませんでした。下草刈りの上手な方が 2 人いましたが、下草と一緒に植えた木も伐ってしまうなどのハプニングもあり、時間がかかって大変苦労しました。林業の下草刈りの技術が必要と痛感しました。土地が肥えていて下草の成長が早いので、手入れが後手にまわると素人の手に負えなくなります。年に 3 回は下草を刈る必要があると思います。春 4 月から 5 月、夏 7 月から 8 月、そして秋の 10 月か 11 月にもしたほうがよいでしょう。その他にも、シルバー人材センターや林業のプロによる作業が年に 1 回か 2 回あってもよいかもしれません。

7 月 5 日に下草刈りをした時に、「げんだぼの森」の上にある三本松原（古屋公園）で、古屋地区の住民 30 人ほどが早朝より公園の草刈をしていました。手際のよい作業でした。9 月 26 日に「げんだぼの森」の様子を見に行ったついでに古屋公園にも行ってみました。その後も草刈をしており、美しく手入れされていました。自治公民館活動の力を見ました。綾はやっぱりスゴイナーと感じました。

「げんだぼの森」は、綾町の入口にあり、藪（やぶ）にしてしまってはもったいないと思います。自治公民館活動を通じて多数の綾町民が参加する活動に育ち、美しい楽しい森ができることを期待します。

☆:◇:☆:◇:☆:◇:☆:◇:☆:◇:☆:◇:☆:◇:☆:◇:☆:◇:☆:◇:☆:◇:

照葉樹林のなかの1コマから
～ 樹木の生き残るための様々な戦略 ～

森林総合研究所　　齊藤　哲

☆:◇:☆:◇:☆:◇:☆:◇:☆:◇:☆:◇:☆:◇:☆:◇:☆:◇:☆:◇:☆:◇:

私たちは、照葉樹林が維持される仕組みや、どのように推移していくのかを綾の照葉樹林で長い年月をかけて調べています。いろいろ照葉樹林を調査していると、中には一見変わった樹木も見かけます。写真１は上層の林冠の閉鎖した林内にみられた樹木のひとつですが、実はこの樹木の地面から 1.5m くらいの高さに（写真の矢印）、かつての根と幹の境目があります。この樹木はカラスザンショウという樹木で、若い枝には鋭いとげがあります。太くなった幹にもイボ状のとげの痕跡が残ります。しかし、根にはとげがなくイボ状のとげの痕跡も残らないため幹と根の境目が明瞭にわかります。私たちは個々の樹木のサイズを測るのに、よく人の胸の高さの幹の太さ（地上高約 1.3m、胸高直径と呼びます）を便宜的に測定します。この照葉樹林にも固定試験地を設定し樹木の胸高直径を定期的に測定してきましたが、この樹木の場合は胸高の根（？）の太さを測っていたことになります。

写真１　林内に見られたカラスザンショウ。矢印が根と幹の境目。

カラスザンショウはみかん科の樹木でその名のごとくサンショウに近い種です。サンショウのように葉に芳香があります。しかし、高さ数メートルまでにしかならない低木種のサンショウとは異なり、樹高は 20m にも達し、森林の一番高い林冠層を構成する立派な高木種です。カラスザンショウは、典型的な先駆性樹木と考えられています。先駆性樹木というのは、森林の伐採跡地や林道脇などの新しくできた裸地に真っ先に生えてくる樹木のことです。裸地のような明るいところで急速に成長しますが、普通暗い林内では生き残ることができません。ただ林内でも、台風などによって上層の樹木が倒れて林床が明るくなったところに発生します。このような、樹木が倒れて上層に開いた穴を林冠ギャップと呼びます。林内の大きい林冠ギャップのもとで先駆性樹木は急速に成長し、やがて自らがその林冠ギャップを埋めたりもします。

林冠ギャップを形成する樹木の倒伏では、幹が途中で折れるのではなく根っこごとひっくり返

る場合があります（写真２）。ひっくり返った根鉢の上はマウントとよばれ、地面より数十 cm から数 m 高くなります。一般に林内で芽ばえた樹木は、より多くの光獲得を目指してより早く林冠に到達するように、上へ上へと競争して成長します。マウント上で芽ばえた樹木（写真３）は、地面で芽ばえた樹木より高い位置にあり、スタート時点で上をめざした競争において有利といえます。しかし、マウント上は土が不安定で崩れやすく、多くの樹木はマウント上で芽ばえても生き残ることはできません。マウントが崩れ落ちる前に早急に安定した土壌まで根を伸ばすことのできる樹木だけ生き残ります。

さて、冒頭の写真１のカラスザンショウの話に戻りますが、高さ 1.5m 付近に根と幹の境目があるということは、このカラスザンショウはかつてこの高さで芽ばえたと考えられます。恐らく林冠ギャップを形成した根返りした木のマウント上でこのカラスザンショウは芽ばえたのでしょう。マウント上の地面より高い位置と林冠ギャップの明るい条件にマッチして急速に成長し、早急に林冠に到達できたと推察されます。根も急速に伸ばしてマウントが崩れ落ちる前にいまの地面まで達することができたのでしょう。現在は林冠も閉鎖し、根返りの痕跡も見られません。あたかも、閉鎖した林内の平らな地面に何事もなかったかのように存在しています。しかし、先駆性樹種であるカラスザンショウの性質や、根と幹の境目が地上 1.5m の高さにあるこの形態から、かつてのこの樹木がマウント上で芽ばえて林冠に到達するまでの劇的なストーリーを読み取ることができるのです。

写真２　2004 年の台風で根返りを起こしたウラジロガシ。
大きなマウントができた。

写真３　マウント上に芽ばえたアカガシ。
やがてマウントは崩れてゆき多くの芽ばえは生き残れない。

今回紹介したカラスザンショウは単なるひとつの例に過ぎませんが、それぞれの樹木には照葉樹林内で生き残るための様々な戦略があると考えられています。こうして、様々な生き残り戦略をもつ多様な樹木によって照葉樹林は構成されているといえます。

☆：◇：☆：◇：☆：◇：☆：◇：☆：◇：☆：◇：☆：◇：☆：◇：☆：◇：☆：◇：☆：◇：

◎◎

綾の照葉樹林プロジェクト

調査研究ワーキンググループとは？

（財）日本自然保護協会　朱宮丈晴

◎◎

綾の照葉樹林プロジェクトでは、森の復元事業を行なう対象地域のすべての活動に関して、月１回の調整会議と年２回の連携会議で活動計画が発表され、承認を得た上で実施することとしています。これまでの行政と市民の関わり方を見ると、行政側で計画を決定して市民に伝えるという一方的な関係であることが多かったのですが、協働、すなわち行政が市民とともに計画段階から相談しながら決めていくという新しい関係を構築するところに、このプロジェクトの最も大事な点があります。しかし、実際に調整会議や連携会議を運営してみると、例えば特定の箇所の間伐方法や復元方法など専門的で詳細な内容に関する議論をすることは、内容的にも時間的にも無理があることがわかってきました。そこで、2007 年 8 月 28 日の第 4 回調整会議において、プロジェクトを運営するためのワーキンググループの設置が提案され、12 月の第 7 回連携会議で、「調査研究」と「地域づくり」についての２つのワーキンググループが承認されました。「調査研究」は、照葉樹林復元の方法・生態系変化の把握などの調査研究に関すること、「地域づくり」は、プロジェクトの体制、市民参画の仕組みづくりについて検討することを目的としています。地域づくりワーキンググループは、2008 年 6 月 20 日の第 8 回連携会議でメンバーや設置要項が承認されてスタートしました（照葉樹林だより 12 号参照）。

一方、調査研究ワーキンググループは、設置の承認は受けているもののまだ正式に発足できていません。すでに、間伐作業が進められており、復元方法を検討することが喫緊の課題なのですが、進める体制について五者で合意ができていないからです。復元方法の検討は、綾の照葉樹林プロジェクトにおける最も重要な検討課題の一つであり、早急な設置が望まれます。2008 年 5 月 28 日、2009 年 3 月 16 日、2009 年 8 月 2 日に、日本自然保護協会が準備会合を実施し、間伐復元の方法や調査研究で得られたデータベースの構築についての検討が進行中です。メンバーは宮崎大学の西脇亜也教授、伊藤哲教授、岩本孝俊教授、高木正博准教授、綾町の河野耕三綾町照葉樹林専門監、日本自然保護協会の大澤雅彦専務理事にお願いしています。課題の検討は待ったなしであることから、早急に体制の見直しを進め、正式発足できるように準備を進めていきたいと考えています。

◎◎

「綾の森を世界遺産にする会」発足の思い出

綾の森を世界遺産にする会　新代表　郷田美紀子

綾の森を世界遺産にという運動を思いついたのは、2001 年に急逝した父（2000 年没）を弔うつもりで、岩木山（青森）のお山詣に参加した時です。

1997 年以来、少ない仲間と数年にわたり鉄塔反対運動に本気で取り組んできました。しかし、それは杳（よう）として広がらず、東京在住のサポーターから「天声人語」や「ニュース 23」にとりあげられる様なことをと言われても、思いつく全てをやり尽くした後の徒労感でいっぱいになっていました。

そういう時に参加した無形文化財にもなっているこの行事は私の心を強く打ちました。旗を閃かせ粛々と山へ山へとつながる人の列。牛馬の列。昔と変わらない山への深い信仰と郷土のお山を愛する思い。私は人々の心がひとつになる運動の原点をみた思いがしました。

世界遺産にという夢のある運動を始めよう。しかし、長い抗争で綾の森に係わる事を恐れる人も多く、そんな中、あの山を世界遺産にという運動展開は容易ではありません。飛騨高山にお住まいの稲本正さん（オーク・ヴィレッジ代表）にご相談したところ、それではまず東京でこの運動をおこしたら良いと言われました。実は、綾の森を世界遺産にする運動は、宮崎で記者会見発表する一ヶ月前に東京で始まりました。

誰が代表になるかはとても重要なことでした。ふさわしい人を真剣に考えました。綾の森に造詣が深く、しかもこの抗争のしがらみがなく、多くの人に敬愛されている方でなくてはなりません。「上野登先生だ！」。2002 年 9 月、バングラディッシュにおられた上野先生に川原一之さん（アジア砒素ネットワークのご協力で連絡をとり、綾の森を世界遺産への運動の代表になっていただきたいとお願いしました。先生は、「よく事情は解らんが自分が必要ならしてもよい」と豪放な返事を下さいました。そして先生は帰国され代表として力強く大らかに私達を守って下さることになりました。深く敬意と感謝を申します。

こうして始まった世界遺産運動は、多くの方のご協力をいただきました。筑紫哲也さんもそのお一人です。賛同人の中に湯本貴和さんもおられます。宮崎文化本舗の事務局体制も不可欠でした。これからも綾の森は多くの方々の愛と力で守り、育てられていくことでしょう。100 年後を想像すると嬉しくなります。綾の照葉樹林は多くの命の息吹をふくみ今日もキラキラ美しく光っています。

この度、休眠状態のこの会を、綾を中心に再び活動させる為に地元の私が代表を務めることになりました。微力ながら郷土への愛を次にわたす為に頑張りたいと思います。よろしくお願いいたします。

補足（組織の変遷）

2002 年に「綾の森を世界遺産にする会」が発足し、14 万人の署名を集めて環境省に世界遺産登録の陳情がなされました。翌年の世界自然遺産候補地検討委員会では、1 万件余りの候補の中、最終選考に残りましたが、原生的植生の面積が狭いことからユネスコへ推挙する暫定リストには入りませんでした。掃部岳も含めた照葉樹林の復元、拡大が必要との助言を受け、宮崎照葉樹林回廊構想を提起し、県知事に要望書を提出して推進協議会を結成しました。2004 年に九州森林管理局から、綾の照葉樹林の復元プロジェクトの提案があり、翌年、官民学協働の「綾川流域照葉樹林帯保護・復元計画（綾の照葉樹林プロジェクト）」が始まりました。推進協議会が「てるはの森の会」となりましたが、「綾の森を世界遺産にする会」のメンバーが中心になって活動しています。「綾の森を世界遺産にする会」は、2007 年に綾町に事務局を移しました。会報「照葉樹林だより」は、第 9 号（2007 年 11 月）以降は「てるはの森の会」の会報として引き継がれています。　　（事務局　相馬美佐子）

お知らせ

森林再生シンポジウム＆フォーラム

2009 年 11 月 21 日（土）宮崎市民プラザ 4 階ギャラリー

午前の部：九州の森の今～森の再生を考える～　10:00～12:00

- 自然の森も衰える？　森林総研　田内裕之
- 自然に森は再生する？　宮崎大学　伊藤哲
- 森が再生できる場所は予測できる？　宮崎県林試　小田三保
- シカは森の再生を妨げる？　森林総研九州　野宮治人

午後の部：第 4 回　照葉樹林研究フォーラム～森から学ぶもの～　13:30～16:30

- 綾の照葉樹林復元プロジェクト　宮崎森林管理署　笹岡哲也
- 日本の照葉樹林　－宮崎の森を中心に－　名古屋大学　山本進一
- 照葉樹林における樹木と動物の多様な関係　静岡大学　小南陽亮
- 照葉樹林の葉はいつ落ちる？～落ち葉から見た森の姿～　森林総研　佐藤保
- 現代における照葉樹林の文化的社会的な意味　総合地球環境学研　湯本貴和

△▼△▼△▼△▼△▼△▼　事務局だより　△▼△▼△▼△▼△▼△▼△

◆綾プロジェクトの視察が相次いでいます♪

8 月 7 日(金)中部大学の寺井先生と学生 5 人が、5 日から綾の沢調査に来た帰りに、てるはの森の会の事務所のある「みやざき NPO ハウス」を訪ねてくれました。

宮崎 NPO 支援センター長・井上氏から、NPO ハウスの成り立ちや NPO の概略等の説明を聞いた後、2 階の[アジア砒素ネットワーク]を訪ね、本会代表でもある上野先生にアジア砒素ネットワークの活動について話していただきました。また、本プロジェクトについても勉強しました。

8 月 18 日(火)「風景評価の異文化比較～日露風景比較プロジェクト」の研究者モスクワ大学の先生方が、綾に視察に来られ、綾照葉大吊橋をご案内しました。

「日露風景比較プロジェクト」は日本人とロシア人が持つ風景（山・海・川などの自然風景）への概念（印象）を比較研究しているとのことでしたが、まだ研究途中ということで、結論の出ていないものでした。宮崎県では綾町と高千穂町を視察されました。

その他にも、8 月 7 日(金)には、国土交通省土地利用調査委員の視察があり、プロジェクトの概要説明をしました。

◆「てるはの森の会」関連行事

7 月　5 日(月)10 日(金) げんだぼの森草刈り作業
9 日(木)第 3 回地域づくりWG
14 日(火)第 3 回連絡調整会議
21 日(火)てるは定例会
8 月　3 日(月)綾プロ連絡調整会議
25 日(火)てるは定例会
9 月　3 日(木)第 4 回地域づくりWG
7 日(月)市民林床調査
8 日(火)第 4 回連絡調整会議
15 日(火)県有林遊歩道調査
21 日(火)てるは定例会
10 月　5 日(月)市民林床調査
6 日(火)第 5 回連絡調整会議
8 日(木)第 5 回地域づくりWG

会員募集中！

「てるはの森の会」では、綾の照葉樹林プロジェクトにご協力いただける会員を募集しております。

年会費		
	個人サポート会員	2000 円
	家族サポート会員	3000 円
	団体サポート会員	5000 円
	法人サポート会員	10000 円

会員になっていただくと、照葉樹林やプロジェクトに関する情報を掲載した「照葉樹林だより」を年 4 回お届けします。プロジェクトが実施するイベントや各種行事に参加できます。詳細は事務局までお気軽にお問合せください。

協賛企業

Time for the Trees
オーデマ・ピゲ財団

Pizza Hut